

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
総合研究報告書

次期がん対策推進基本計画に向けた新たな指標及び評価方法の開発のための研究
研究代表者 東 尚弘 国立がん研究センター がん対策研究所 医療政策部 部長

研究要旨：2014年に発出された第2期のがん対策推進基本計画でがん対策の進捗評価を行っていくことが定められてから、患者体験調査を中心とした評価のための各種調査・解析が行われてきた。これまで2回の成人を対象とした患者体験調査に加えて 第1回の小児患者体験調査が行われ、それらの報告書が発行された。また成人の患者体験調査に関しては患者関係者と共同で提言書が発行されその結果を活用する準備が進めた。さらにこれらの調査の詳細解析を進めていくことでがん対策の各分野についての実態がより明らかになり、さらにエビデンスを生む活動につながっていくことが期待される。本研究期間の3年間はコロナ禍のために実施ができなかったが、本研究の終了翌年に第3回の患者体験調査が予定されているため、それに向けた様々なパイロット調査を行った。他にもがん対策の重要な分野であるがん教育についても、全国の高等学校における調査が行われ、がん教育の初期アウトカムとしての知識の確認が行われたことで、一定の課題が明らかになった。都道府県においても第4期のがん対策計画の策定準備が進められていることから、必要な情報交換が行われた。

研究分担者氏名・所属機関名・職名

		市瀬 雄一	研究員 国立がん研究センター がん対策研究所 医療政策部 研究員
若尾 文彦	国立がん研究センター がん対策研究所 事業統括		
高山 智子	国立がん研究センター がん対策研究所 がん情報提供部 部長	片山 佳代子	群馬大学情報学部 准教授
伊藤 ゆり	大阪医科薬科大学 医学研究支援センター医療統計室 室長・准教授	松坂 方士	弘前大学医学部附属病院 臨床試験管理センター 准教授
		増田 昌人	琉球大学病院がんセンター 特命准教授（診療教授）
小川 千登世	国立がん研究センター 中央病院 小児腫瘍科 科長		
助友 裕子	日本女子体育大学 体育学部健康スポーツ学科 教授		
樋田 勉	獨協大学経済学部 教授		
脇田 貴文	関西大学 社会学部社会学科心理学専攻 教授		
渡邊 ともね	国立がん研究センター がん対策研究所 医療政策部		

A. 研究目的

2014年の第2期がん対策推進基本計画から、がん対策の指標による進捗評価が定められたことを受け、これまで、本研究班の先行班において、関係者を対象としたデルファイ法を用いて全体目標・分野別施策の指標を策定、全国の第1回の患者体験調査の実施やがん診療連携拠点病院現況報告を含む諸データ源による測定を行ってきた。平成29-31年度の活動では、それまでの結果から指標の見直しを行った上で患者体験調査の質問票を改訂、測定方法の再検討や未測定指標の測定を行った。第2回の患者体験調査は厚労省の国立がん研究センターへの委託事業として、平成30年には改訂した質問票を使用して、全国2万人の成人ががん患者を対象とした全国患者体験調査が、続く令和1年度には小児患者体験調査が行われた。

本研究は、以上の経緯を踏まえ、第3期のがん

対策推進基本計画の評価に資するデータを提供すると共に、次期がん対策推進基本計画（以下、「次期計画」という）に向けた進捗評価指標を設定し、測定結果に基づくがん対策の継続的改善を推進するため必要な研究を行うことを目的とした。

B. 研究方法

大別して以下の6点を行った。

- ① 患者体験調査に基づく政策提言
- ② 第2回患者体験調査の詳細解析
- ③ 小児患者体験調査についての検討
- ④ 患者体験調査改善点の検討
- ⑤ 数理モデルについての調査
- ⑥ がん教育

① 患者体験調査に基づく政策提言

平成30年度末に実施された患者体験調査（以下、患者体験調査という）について、その結果を元とした政策提言をまとめて公表した。その過程で患者関係者（全国がん患者団体連合会、調査時のがん対策推進協議会患者委員）を頻繁な意見交換を行った。これらは、報告書を発行するとともに国立がん研究センターのホームページ上で公表した。

② 第2回患者体験調査の詳細解析

成人患者体験調査のデータを使い、代表的なテーマに対して詳細に分析を開始した。自由回答の分析、データの正確性を検討するものや無回答のパターンに関する検討など方法論に関するものと、主として経済的問題、就労支援、高齢者といった対象者で区別した際の特徴などについて詳細解析が行われた。またさらに、自由記述に関する分析も行われた。

③ 小児患者体験調査

今回初めて小児患者体験調査が行われたことを受けて分析を行った。さらにそれらの結果について関係者と意見交換を行った。

④ 患者体験調査改善点の検討

次回の患者体験調査に向けて2年目、3年目にかけて、様々な検討を行った。

a. 施設から得られた情報（院内がん登録の臨床情報）との比較

患者の回答負担軽減のためには、施設から得られた情報をつかって質問数を減らすことが考えられるが、回答率が下がってしまう懸念がある。そこで、今回、主として患者体験調査の本調査と並行して、各施設で10名ずつ、施設から得られた診療情報と比較可能な形で質問紙上も説明を行った分について解析を行った。

b. サンプルサイズの再検討

第2回の患者体験調査の結果を受けて都道府県ごとの検討を試みたがサンプルサイズが項目によっては足りないこともあり、これまでは全体値に焦点を当てたサンプル設計をしてきたのに対して、都道府県ごとの比較なども可能なサンプルサイズの設計をすることが必要と考えられたため、再検討を行った。

⑤ 数理モデルにかかる調査

シミュレーションは研究としては盛んにおこなわれているが、基礎データが不足していると異なるデータが出てくることがある。しかしその手法はブラックボックスになりがちであり、がん対策評価に使えるかどうかの検討は必要である。シミュレーションの活用が先行する欧米諸国に比較して、我が国の課題を検討するためには、事例の収集が必要と考えられた。

⑥ がん教育

がん対策関係者、がん教育担当者の問題意識を集約してきたが、先行研究なども参考にしながら、がん教育の進捗評価が可能な、高校2年生へのアンケート用紙を2年目までに作成、さらに、3年目で全国の145の高等学校の協力を得て、実態調査を行った。

（倫理面への配慮）

患者体験調査（成人、小児）については、研究計画を国立がん研究センター倫理審査委員会において審査され、承認された方法で行っている。がん教育の調査については、日本女子体育大学で倫理審査を行い、また国立がん研究センターにおいても審査を受けて許可を得た。

C. 研究結果

①患者体験調査に基づく政策提言

以下の各分野に関して、提言書を作成した。

1. 「診断時の患者への情報周知」、2. 「相談支援センターの活用」、3. 「医療者に対する周知」、4. 「妊孕性温存に対する対応の強化」、5. 「セカンドオピニオン制度の拡充」6. 「地域医療連携の強化」7. 「緩和ケア」8. 「就労支援」9. 「経済的負担」10. 「社会とのつながり」11. 「臨床試験の推進」12. 「ゲノム医療の認知」13. 「AYA世代のがん対策」14. 「希少がん対策」
- また各分野1～2個の提言とし合計19の提言となった。

②第2回患者体験調査の詳細解析

a) 自由回答の分析

1：調査への意見、2：医療者に関すること、3：治療に関すること、4：生活に関すること、5：その

他(助成制度や健診、何らかのサポートの要望など)の5つのグループに分類した。グループ1:調査への意見が105件、グループ2:医療者に関することが635件、グループ3:治療に関することが697件、グループ4:生活に関することが298件、グループ5:その他が167件だった。グループ1には調査用資材や調査項目に対する意見、グループ2には医療者の態度や言動に対する意見、グループ3には治療の後遺症や医療の地域格差に関する意見、グループ4には子どもを中心とする家族へのサポートや就労に関する意見、グループ5にはがん治療後の生活の変化に対する助成制度の要望などが分類された。

b) 75歳以上の高齢者の回答傾向

2971名(39.4%)が75歳以上であった。本人回答は、<75の方が多かった(87.3%vs. 67.3%, $p<0.01$)一方、75<=においては家族回答が32.6%に上った。ステージ分布は、両グループにおける回答者においてI期が最も高かった(<75:31.9%vs. 75<=:25.3%, $p<0.01$)が、より多くの75<=の回答者(13.8%vs. 23.0%, $p<0.01$)が「わからない」と回答した。回答に関しては、75<=は<75と比べて①満足度が高い傾向があるが、ほとんどの項目が有意ではない②相談が必要な際には相談できるが、相談を必要としないことが比較的多い③情報伝達が困難な可能性が明らかとなった。

c) 家族に負担(迷惑)をかけているとの回答

家族に負担をかけていると思うか、という問いに対して、「とてもそう思う」と回答した者は、25%であり、その割合は女性が男性よりもわずかに多く(26.4% vs 24.5%)また、20~30歳代に多く、60代以降は減る傾向に見られた。相談支援センターを知っている者、利用した者、がそれぞれ、知らないもの、利用しなかった者よりも多かった。家族の悩みや負担を相談できる支援・サービスがあるかに対して「そう思わない」と回答したものは、36.5%が負担をかけたと答えており、それ以外の25%前後の回答よりも多かった。

d) 就労の継続

今回の解析では被用者に限定し調査回答時に離職しているかどうか、またその影響因子について解析している。全体としては女性の方が離職割合は男性より高かったものの、常勤・非常勤を層別すると、その差はより小さく、女性の方が非常勤の割合が多いことが要因として大きく影響していることがうかがえた。また、治療法別においては、化学療法、放射線療法を実施されたものの離職率は高かった。経済的理由による治療中止・変更があった割合は、全体としては男性の方がわずかに高いことが観察されたが、特に若年者(40歳未満)においては、女性の方が倍近く高かった

(6.9%vs12.1%)。

3. 小児患者体験調査

厚労省委託事業における小児患者体験調査は、参加依頼施設は150、このうち参加施設数は97であり、調査票の発送数2511、除外数492、であった。非がん患者数245であり小児がん患者(記載は家族)からの回収数は1221であった。成人の患者体験調査と共通の質問について比較をいくつかしたところ、例えば、主治医外に相談しやすいスタッフがいたかについては、全体の78.0%が肯定的な回答をしており、成人の48.8%よりも大幅に多かった。外見の変化に関する相談ができた患者の割合は、成人28.3%に対し、小児51.8%となっていた。一方で、周囲の人が偏見を持っているという回答の割合は、24.5%と、成人の5.3%よりも多かった。これらにつき、日本小児血液・がん学会や日本小児がん研究グループ、患者会などと意見交換を行い、次期がん対策推進基本計画における課題の検討を行った。また、これらの結果は、第4期のがん対策推進基本計画にも引用されて、今後のがん対策にも反映されていることと期待される。

4. 患者体験調査の改善点

a. 施設由来の情報と回答の比較

患者の回答と、病院から得られている医療情報を一部において比較した結果、当初懸念されていた、回答率の変化などはなかった。診断などは9割以上の一致が得られていた一方、がんのステージは47%の一致度であった。ステージ別についてはIV期でもっとも一致率は高いものの、66%にとどまっていた。ステージ情報は回答に頼るのではなく、別途取得する方が良いと考えられる。

b. サンプルサイズの再検討

都道府県値を出すためのサンプル数の取り方を様々な方法で試行したところ、各施設におけるサンプル数を増やすよりも施設数を増やす方が有効であることが分かった。また、手続き的にも施設を選択して拒否のあった施設を補充するやり方は非常に大きな手間となるために、全施設を対象とすることが有効と考えられた。

c. Web調査の適切性の検証

Web一郵送調査は222名に対して解析を行ったが、そもそもがん診断の有無が一致する者が144名であった。回答一致率は、平均87.5%であった。Webの検証調査においては、1257名を対象としたものの、がん診断の一致があったものが767名で、回答の一致率は、86.2%であった。

d. 尺度スケールによる回答の検証

パイロット調査を依頼した4施設から1500名

(調査票 A 750 名、調査票 B 750 名) に対して調査票を発送し、769 名(調査票 A 389 名、調査票 B 380 名)を回収した(回収率 51.3%)。調査に同意があり、がんと診断されたことがあると回答した 712 名(調査票 A 364 名、調査票 B 348 名)を解析対象とした。性別等の属性等の無回答割合は 2 郡間で差が見られなかったが、選択肢の形式を実施した問においては統計的に有意に尺度方式において無回答割合が多かった。

5. シミュレーション

がん対策の進捗評価に使えるマイクロシミュレーションモデルは何かということを検討する前提として、海外事例、国内事例を概観するとともに文献検索による注意点を俯瞰した。マイクロシミュレーションはその過程が見えづらいことでユーザーに評価が難しいことが多い。その点を払しょくする意味でも、観測不可能データをキャリブレーションにより得た過程に関して、特に透明性を確保することが重要であることが示唆された。

6. がん教育

がん教育に関する調査のために協力の得られそうな都道府県と協議を行った。ヘルスリテラシー的な質問を入れるべきかどうか、あるいは文部科学省の更改しているがん教育推進のための教材に書かれていることに限定すべきかどうか、などの検討が行われた。そのうえで、がん教育の進捗評価が可能な、高校 2 年生へのアンケート用紙を作成し、全国調査を行った。

145 校から協力得られ、総計 21692 名から回答を得ることができた。回答された性別は女性がわずかに多く、性別は 2.8%について不明であった。がん教育の効果として考えられる 32 指標については、予防については、正答率が、どの指標も 70%以上であったものの、検診で、57-67%、その他の分野の指標は正解率のばらつきが大きかった。

7. 都道府県のがん対策との情報交換

コロナ禍のためのがん対策の進捗が影響されている実態が明らかになっている。第三期青森県がん対策推進計画の中間評価は、国民健康・栄養調査と同時に実施される令和 2 年度青森県県民健康・栄養調査の結果によって実施される予定であったが、コロナ禍により調査が中止、中間評価も延期された。沖縄県はロジックモデルの作成を行い指標を策定する作業を進めている。神奈川においても審議会の書面開催が続き新しい提案は困難な状態だった。

また、3 年目は、都道府県においてもがん対策推進計画の策定を準備する時期に当たったため、神奈川県、群馬県、青森県のがん対策計画の策定に

関する状況の聴取を行った。神奈川県においては、Nordpred による乳がん罹患率の将来推計を行っており、2020 年におけるその罹患数と実際の数値を比較したが実際が予測を上回っていることが分かった。群馬県における 35 市町村からのがん対策のニーズのアンケートにおいては、検診受診者を系統的に増やすためのシステムが必要であり、特に職域に対するアプローチが必要との声があった。青森県については、院内がん登録データの利用を進めようとしつつも、個人情報保護法上の整理ができていないことからできていないという課題が明らかになった。沖縄県においても、第 4 期のがん対策推進計画の策定に向けた準備活動を行った。ロジックモデルを活用して、県や他の関係者とのコミュニケーションを円滑にした。

D. 考察

患者体験調査の成人・小児の報告書が発行されそれらのデータに基づくさらなる解析を進めてきた。ここから様々な知見を報告することができた。患者体験調査自体は、主たる目的が幅広い実態把握に基づくがん対策全般の評価であるために、詳細な原因の分析に資する解析には限界があるものの、次の調査などへの出発点になると考えられる。

がん教育については、単なる知識の伝達だけでなく、論理的思考や不確実性に関する教育がなかなか難しいと考えられた。がん対策の文脈の中で考えられる達成度と教育現場の目標を明確に整合性をとることが、評価をする上でも必要であると考えられ、その認識のもとに質問紙を作成する必要があると考えられる。今後評価や教育を継続するうえではその意識を入れていくことが重要である。

第 3 回の患者体験調査へ向けた検討においては、いくつかの知見が提供された。まず、がんの進行度については、正確性の課題や質問数の低減のためにも他の情報源を使用することが望ましいと考えられた。また、質問の回答形式については、尺度形式は避けて多選択肢形式が重要と考えられた。Web 調査の併用についてはその信頼性が必ずしも確認できず慎重に検討すべきと考えられた。

都道府県のがん対策の推進において、データを活用し行っていくことは、そのデータの信頼性や、入手可能性などに対する整理を国レベルで行っていくことで、「未整理」を理由とした活用の障害を取り除いていくことが必要と考えられる。

E. 結論

がん対策推進基本計画の中間評価に資する患者体験調査の報告が発行され、詳細な解析を行うとともに、がん対策推進基本計画の継続的な策定に

向けたデータの提供が必要になると考えられる。その他、この3年間は、その他、コロナ禍のために研究の遂行が影響を受けた。令和5年現在コロナの影響はずいぶん少なくなったとはいえ、医療機関では面会の制限など、まだ影響は大きい。今後もコロナ禍の影響は免れ得ないが、新しいやり方で、がん対策の遂行と、評価を実施していく必要がある。

F. 健康危険情報
なし

G. 研究発表

1. 論文発表

R2 年度

1. Miyamoto K, Wakabayashi M, Mizusawa J, Nakamura K, Katayama H, Higashi T, Inomata M, Kitano S, Fujita S, Kanemitsu Y, Fukuda H. Evaluation of the representativeness and generalizability of Japanese clinical trials for localized rectal/colon cancer: comparing participants in the Japan Clinical Oncology Group study with patients in Japanese registries. *Eur J Surg Oncol*. 2020 Sep;46(9):1642-1648. doi: 10.1016/j.ejso.2020.04.005. Epub 2020 Apr 18
2. Tanaka K, Kandori S, Nitta S, Chihara I, Kojo K, Nagumo Y, Kimura T, Kojima T, Kawai K, Okuyama A, Higashi T, Nishiyama H. Characteristics of penile cancer in Japan: An analysis of nationwide hospital-based cancer registry data. *Int J Urol*. 2020 Jun;27(6):538-542. doi: 10.1111/iju.14247.
3. Kojo K, Kawai K, Kawahara T, Kimura T, Kandori S, Nagumo Y, Nitta S, Kojima T, Okuyama A, Higashi T, Nishiyama H. Recent malignant testicular tumor trend in Japan, a country with an aging population: a large-scale study of 2012-2015 hospital-based cancer registry data. *Jpn J Clin Oncol*. 2020 Sep 28;50(10):1201-1208. doi: 10.1093/jjco/hyaa110.
4. Nagumo Y, Kojima T, Shiga M, Kojo K, Tanaka K, Kandori S, Kimura T, Kawahara T, Kawai K, Okuyama A, Higashi T, Nishiyama H. Clinicopathological features of malignant urachal tumor: A hospital-based cancer registry data in Japan *Int J Urol*. 2020 Feb;27(2):157-162.
5. Ishii T, Nakano E, Watanabe T, Higashi T. Epidemiology and practice patterns for male breast cancer compared with female breast cancer in Japan. *Cancer Med*. 2020 Aug;9(16):6069-6075. doi: 10.1002/cam4.3267. Epub 2020 Jul 1
6. Kimura T, Kawai K, Kandori S, Nitta S, Kojo K, Nagumo Y, Negoro H, Okuyama A, Higashi T, Kojima T, Nishiyama H. Impact of centralization in primary retroperitoneal sarcoma treatment: analysis using hospital-based cancer registry data in Japan *Int J Clin Oncol* 2020 Sep;25(9):1687-1694. DOI: 10.1007/s10147-020-01709-7
7. Kawai A, Higashi T, Shibata T, Yoshida A, Katoh Y, Fujiwara Y, Nishida T. Rare cancers in Japan: definition, clinical features and future perspectives. *Jpn J Clin Oncol*. 2020 Sep 5;50(9):970-975. doi: 10.1093/jjco/hyaa121.
8. Motoyama S, Maeda E, Iijima K, Sato Y, Koizumi S, Wakita A, Nagaki Y, Fujita H, Yoneya T, Imai K, Terata K, Minamiya Y, Higashi T. Does Esophagectomy Provide a Survival Advantage to Patients Aged 80 Years or Older? Analyzing 5066 Patients in the National Database of Hospital-Based Cancer Registries in Japan. *Annals of Surgery*, 29 Dec 2020, Volume Publish Ahead of Print – Issue. DOI: 10.1097/sla.0000000000004437
9. Ren N, Nishimura A, Kurogi A, Nishimura K, Matsuo R, Ogasawara K, Hashimoto Y, Higashi T, Sakai N, Toyoda K, Shiokawa Y, Tominaga T, Miyachi S, Kada A, Abe K, Ono K, Matsumizu K, Arimura K, Kitazono T, Miyamoto S, Minematsu K, Iihara K. Measuring Quality of Care for Ischemic Stroke treated with Acute Reperfusion Therapy in Japan: The Close The Gap-Stroke. *Circulation J*. 2021 Jan 25;85(2):201-209. doi: 10.1253/circj.CJ-20-0639.
10. 加茂憲一, 福井敬祐, 坂本亘, 伊藤ゆり. がん対策立案・評価における意思決定に寄与するマイクロシミュレーションの構築: 大腸がんを事例に. *計量生物学*. 2021;41(2):93-115.
11. Tamura S, Suzuki K, Ito Y, Fukawa A. Factors related to the resilience and mental health of adult cancer patients: a systematic review. *Support Care Cancer*. 2021.
12. Katanoda K, Hori M, Saito E, Shibata A, Ito Y, Minami T, Ikeda S, Suzuki T, Matsuda T. Updated trends in cancer in Japan: incidence in 1985-2015 and mortality in 1958-2018 - a sign of decrease in cancer incidence. *J Epidemiol*. 2021.
13. 伊藤ゆり. がんのアウトカムにおける社会経

済指標による格差. 癌と化学療法. 2020;47(7):1007-11.

14. Ito Y, Miyashiro I, Ishikawa T, Akazawa K, Fukui K, Katai H, Nunobe S, Oda I, Isobe Y, Tsujitani S, Ono H, Tanabe S, Fukagawa T, Suzuki S, Kakeji Y, Sasako M, Bilchik A, Fujita M. Determinant factors on differences in survival for gastric cancer between the US and Japan using nationwide databases. *J Epidemiol.* 2021. 31(4):241-248
15. Aoe J, Ito Y, Fukui K, Nakayama M, Morishima T, Miyashiro I, Sobue T, Nakayama T. Long-term trends in sex difference in bladder cancer survival 1975-2009: A population-based study in Osaka, Japan. *Cancer medicine.* 2020. 9(19):7330-7340
16. Ito Y, Rachet B. Chapter 12. Cancer Inequalities in Japan. Brunner E, Cable N, Iso, H. Eds. *Health in Japan: Social Epidemiology of Japan since the 1964 Tokyo Olympics.* Oxford University Press; 2020. 179-199
17. 助友裕子, 東尚弘, 若尾文彦. 外部講師活用型がん教育の推進における教育委員会担当者の困り事—がん対策担当部署との連携に向けたワークショップ参加者の記述—. *日本健康教育学会誌* 2021 ; 29(2) : in press.
18. Takeuchi E, Fujisawa D, Miyawaki R, Yako-Suketomo H, Oka K, Mimura M, Takahashi M. Cross-cultural validation of the Cancer Stigma Scale in the general Japanese population. *Palliat Support Care.* 2020 Jul 1:1-7. doi: 10.1017/S147895152000486. Online ahead of print.
19. Ishii T, Nakano E, Watanabe T, Higashi T., *Cancer Med.* 2020 Aug;9(16):6069-6075 Epidemiology and practice patterns for male breast cancer compared with female breast cancer in Japan, *Cancer Med.* 2020 Aug;9(16):6069-6075
20. Katayama K, Ishikawa D, Miyagi Y, Takemiya S, Okamoto N, Ogawa A. Qualitative analysis of cancer telephone consultations: Differences in the counseling needs of Japanese men and women. *Patient Education and Counseling (PEC):2555-2564*, 4, 2020.
21. Narimatsu H, Nakamura S, Sakaguchi M, Katayama K. Future patient incidence in hemato-oncology: a study using data from cancer registries in Japan. *Risk Management and Healthcare Policy:2407-2414*, 10, 2020.
22. Nemoto D, Yokose T, Katayama K, Murakami S, Kato T, Saito H, Suzuki M, Eriguchi D, Samejima J, Nagashima T, Ito H, Yamada K, Nakayama H, Masuda M. Tissue surface area and tumor cell count affect the success rate of the OncoPrint Dx Target Test in the analysis of biopsy tissue samples. *Thoracic Cancer* 12:194-200, 10, 2020.
23. Watanabe K, Katayama K, Yoshioka T, Narimatsu H. Impact of individual background on the unmet needs of cancer survivors and caregivers - a mixed-methods analysis. *BMC Cancer.* 2020 Mar 30;20(1):263. doi: 10.1186/s12885-020-06732-5.
24. Isaka T, Nakayama H, Ito H, Yokose T, Katayama K, Yamada K, Masuda M. Efficacy of platinum-based adjuvant chemotherapy on prognosis of pathological stage II/III lung adenocarcinoma based on EGFR mutation status: a propensity score matching analysis. *Mol Diagn Ther.* 2019 Oct;23(5):657-665. doi: 10.1007/s40291-019-00419-9. 2019.
25. Suketomo YH, Katanoda K, Kawamura Y, Katayama K, et al., Children's Knowledge of Cancer Prevention and Perceptions of Cancer Patients: Comparison Before and After Cancer Education with the Presence of Visiting Lecturer -Guided Class. *J Can Education.* 2019 Dec;34(6):1059-1066. doi:10.1007/s13187-018-1408-7.
26. 齊藤真美, 松田美香, 高橋将人, 片山佳代子, 阪口昌彦, 田中里奈, 松坂方士. 北海道と神奈川県における乳がんの罹患数の将来推計と医療施設および医療従事者の配置の検討. *JACR Monograph No.24.* 2019 ; 24-35.

R3年度

1. Watanabe T, Sugiyama T, Imai K, Higashi T. How are new drugs disseminated in Japan? Analysis using the National Database of Health Insurance Claims of Japan. *Cancer Science*, 09 March 2022; DOI: 10.1111/cas.15322
2. Higashi, T. Cancer epidemiology and treatment patterns for older persons in Japan: A review of nationwide data and statistics. *Japan. Jpn J Clin Oncol.* 2022 Apr 6;52(4):303-312. doi:

- 10.1093/jjco/hyac011.
3. Kurogi A, Onozuka D, Hagihara A, Nishimura K, Kada A, Hasegawa M, Higashi T, Kitazono T, Ohta T, Sakai N, Arai H, Miyamoto S, Sakamoto T, Iihara K, the J-ASPECT Study Collaborators. Influence of hospital capabilities and prehospital time on outcomes of thrombectomy for stroke in Japan from 2013 to 2016. *Scientific Reports* 12, Article number: 3252 (2022), 28 February 2022; <https://doi.org/10.1038/s41598-022-06074-1>
 4. Ishii T, Nakano E, Watanabe T, Higashi T. Cardiac function checkup during trastuzumab therapy among patients with breast cancer. *Clinical Breast Cancer*, 19 January 2022; <https://doi.org/10.1016/j.clbc.2022.01.005>
 5. 佐藤三依、渡邊ともね、市瀬雄一、松木明、脇田貴文、東 尚弘：患者診療体験調査における質問表現の回答への影響に関する比較調査 厚生指標 2021年12月号(第68巻第15号)p.9-16
 6. Watanabe T, Ichinose Y, Matsuki M, Wakita T, Toida T, Masuda M, Higashi T. Experiences of patients with cancer at health care facilities in Japan: Results from a nationwide survey. *BMC Health Services Research*, 21, 2021 Oct. 1180(2021), <https://doi.org/10.1186/s12913-021-07184-8>
 7. Watanabe T, Goto R, Yamamoto Y, Ichinose Y, Higashi T. First-Year Healthcare Resource Utilization Costs of Five Major Cancers in Japan. *Int. J. Environ. Res. Public Health* 2021 Sep. 18(18), 9447; <https://doi.org/10.3390/ijerph18189447>
 8. Noda-Narita S, Kawachi A, Okuyama A, Sadachi R, Hirakawa A, Goto Y, Fujiwara Y, Higashi T, Yonemori K. First-line treatment for lung cancer among Japanese older patients: A real-world analysis of hospital-based cancer registry data. *PLoS One*. 2021 Sep 20;16(9):e0257489. doi: 10.1371/journal.pone.0257489. PMID: 34543332; PMCID: PMC8452055.
 9. Motoyama S, Maeda E, Iijima K, Anbai A, Sato Y, Wakita A, Nagaki Y, Fujita H, Minamiya Y, Higashi T. Differences in treatment and survival between elderly with thoracic esophageal cancer in metropolitan areas and other. *Cancer Science*. 2021 Oct; 112(10): 4281–4291. Published online 2021 Jul 31. doi: 10.1111/cas.15070
 10. 力武 諒子, 安藤 瑞生, 吉田 昌史, 吉本 世一, 山嵜 達也, 東 尚弘：頭頸部がん専門医制度が定める指定研修施設における治療の現況, 頭頸部外科.2021年7月 ; 31 (1) : 45 ~ 50 , <https://doi.org/10.5106/jjshns.31.45>
 11. Okuyama A, Tsukada Y, Higashi T. Coverage of the Hospital-Based Cancer Registries and the Designated Cancer Care Hospitals in Japan. *Jpn J Clin Oncol*, Volume 51, Issue 6, June 2021, Pages 992–998, <https://doi.org/10.1093/jjco/hyab036>
 12. 助友裕子、東 尚弘 若尾文彦 外部講師活用型がん教育の推進における教育委員会担当者の困り事:がん対策担当部署との連携に向けたワークショップ参加者の記述 日本健康教育学会誌 2021年5月. 29巻2号 p. 163-172 , <https://doi.org/10.11260/kenkokyoiku.29.163>
 13. 東 尚弘 わが国のがん登録制度と臨床での活用可能性 腫瘍内科 (1881-6568)27巻4号 Page445-449(2021.04)
 14. Iwagami M, Kumazawa R, Miyamoto Y, Ito Y, Ishimaru M, Morita K, Hamada S, Tamiya N, Yasunaga H: Risk of Cancer in Association with Ranitidine and Nizatidine vs Other H2 Blockers: Analysis of the Japan Medical Data Center Claims Database 2005-2018. *Drug Saf* 2021, 44(3):361-371.
 15. Kamo KI, Fukui K, Ito Y, Nakayama T, Katanoda K: How much can screening reduce colorectal cancer mortality in Japan? Scenario-based estimation by microsimulation. *Jpn J Clin Oncol* 2022, 52(3):221-226.
 16. Katanoda K, Ito Y, Sobue T: International comparison of trends in cancer mortality: Japan has fallen behind in screening-related cancers. *Jpn J Clin Oncol* 2021, 51(11):1680-1686.
 17. Kataoka A, Fukui K, Sato T, Kikuchi H, Inoue S, Kondo N, Nakaya T, Ito Y: Geographical socioeconomic inequalities in healthy life expectancy in Japan, 2010-2014: An ecological study. *Lancet Reg Health West Pac* 2021, 14:100204.

18. Yagi A, Ueda Y, Ikeda S, Miyoshi A, Nakagawa S, Hiramatsu K, Kobayashi E, Kimura T, Ito Y, Nakayama T, Nakata K, Morishima T, Miyashiro I, Kimura T: Improved long-term survival of corpus cancer in Japan: A 40-year population-based analysis. *Int J Cancer* 2022, 150(2):232-242.
19. 榎原敦子, 中山健夫, 伊藤ゆり: HPV ワクチンと子宮頸がん HPV1 次検診 日本と世界の子宮頸がんの現状. *医学のあゆみ* 2022, 280(7):745-753.
20. 福井敬祐, 伊藤ゆり, 片野田耕太: 都道府県別にみるがん年齢調整死亡率の推移予測ツールの開発. *厚生*の指標 2022.[印刷中]
21. 片岡葵, 太田将仁, 谷口高平, 小村和正, 福井敬祐, 伊藤ゆり: 単施設における院内がん登録と生体資料をレコードリンクージした臨床・疫学研究に関するシステムティックレビュー. *癌と化学療法誌* 2021, 48(12):1469-1474
22. 太田将仁, 伊藤ゆり, 松本吉史, 東尚弘. がん診療連携拠点病院現況報告における院内がん登録の活用に関する検討: 治療件数と情報公開. *JACR モノグラフ* 2021.27 ; 20-5.
23. 助友裕子, 東尚弘, 若尾文彦. 外部講師活用型がん教育の推進における教育委員会担当者の困り事—がん対策担当部署との連携に向けたワークショップ参加者の記述—. *日本健康教育学会誌* 2021 ; 29(2) : 163-172.
24. 助友裕子. 健康なコミュニティ再生の担い手: —ヘルスプロモーションの視点から. *女子体育* 2022 ; 64(1) : 10-13.
25. 吉池信男, 武見ゆかり, 江口泰正, 中村正和, 上地勝, 岡浩一朗, 小橋元, 助友裕子, 福田吉治, 村山伸子. ウイズコロナの健康教育・ヘルスプロモーションを考えるワークショップ. *日本健康教育学会誌* 2021 ; 29(2):198-206.
26. Watanabe T, Sugiyama T, Imai K, Higashi T. How are new drugs disseminated in Japan? Analysis using the National Database of Health Insurance Claims of Japan. *Cancer Science*, 09 March 2022; DOI: 10.1111/cas.15322
27. Watanabe T, Goto R, Yamamoto Y, Ichinose Y, Higashi T. First-Year Healthcare Resource Utilization Costs of Five Major Cancers in Japan. *Int. J. Environ. Res. Public Health* 2021, 18(18), 9447; <https://doi.org/10.3390/ijerph18189447>.
28. Watanabe T, Ichinose Y, Matsuki M, Wakita T, Toida T, Masuda M, Higashi T. Experiences of patients with cancer at health care facilities in Japan: Results from a nationwide survey. *BMC Health Services Research*. 2021 Oct. 21:1180 <https://doi.org/10.1186/s12913-021-07184-8>
29. 佐藤三依, 渡邊ともね, 市瀬雄一, 松木明, 脇田貴文, 東 尚弘. 患者診療体験調査における質問表現の回答への影響に関する比較調査 厚生

の指標 2021 年 12 月号(第 68 巻第 15 号) p.9-16

30. Ono k, Kasashima R, Katayama K, Miya gi Y, Yokose T. Clinicopathological and M olecular Characteristics of Endometrial N euroendocrine Carcinomas Reveal Preexist ing Endometrial Carcinoma Origin. *Pathol ogy International*. 2021 Aug;71(8):491-499.
31. Cynthia de Luise, Sugiyama N, Morishi ma T, Higuchi T, Katayama K, Nakam ura S, Haoqian Chen, Edward Nonnenm acher, Has R, Jinno S, KinjoM, Suzuki D, Tanaka Y, Setoguchi S. Validity of claims-based algorithms for selected canc ers in Japan: Results from the VALIDAT E-J study. *Pharmacoepidemiology & Drug Safety*. 2021.Sep;30(9):1153-1161.
32. Ueda Y, Katayama K, Yagi A, Kimura T. The chasm we must cross in Japan for re-promotion of the HPV vaccine. *Cancer Prevention Research*. 2021 Jul;14(7):683-686.

R4 年度

1. Watanabe T, Rikitake R, Kakuwa T, Ichinose Y, Nino M, Mizushima Y, Ota M, Fujishita M, Tsukada Y, Higashi T. Time to treatment initiation for six cancer types: An analysis of data from a nationwide registry in Japan. *World Journal of Surgery* 2023 Apr;47(4):877-886. doi: 10.1007/s00268-022-06883-5. Epub 2023 Jan 6.
2. Ichinose Y, Yang Yi-Hsin, Tsai Hui-Jen, Huang Ru-Yu, Higashi T, Nishida T, Chen Li-Tzong. Imatinib use for gastrointestinal stromal tumors among older patients in Japan and Taiwan. *Sci Rep*. 2022 Dec 28;12(1):22492. doi: 10.1038/s41598-022-27092.
3. Yamamoto S, Sakakibara N, Hirano H, Morizane C, Honma Y, Hijioka S, Okusaka T, Higashi T, Kawai A. The real-world selection of first-line systemic therapy regimen for metastatic gastroenteropancreatic neuroendocrine neoplasm in Japan. *Scientific Reports* 2022 12, Article number: 17601.

4. Ishii T, Watanabe T, Higashi T. Differences in the performance of adjuvant chemotherapy between hemodialysis and non-hemodialysis patients. *Cancer Medicine*. 2023 Feb;12(4):4033-4041. doi: 10.1002/cam4.5258. Epub 2022 Sep 21.
5. Satake T, Morizane C, Rikitake R, Higashi T, Okusaka T, Kawai A. The epidemiology of rare types of hepatobiliary and pancreatic cancer from national cancer registry. *J Gastroenterol*. 2022. 57(11) :890-901. doi: 10.1007/s00535-022-01920-5. Epub 2022 Sep 26.
6. Ren N, Nishimura K, Higashi T, Iihara K. Associations Between Adherence to Evidence-Based, Stroke Quality Indicators and Outcomes of Acute Reperfusion Therapy. *Stroke* 2022 Nov;53(11):3359-3368.
7. Okuyama A, Watabe M, Makoshi R, Takahashi H, Tsukada Y, Higashi T. Impact of the COVID-19 pandemic on the diagnosis of cancer in Japan: analysis of hospital-based cancer registries. *Jpn J Clin Oncol*. 2022 Oct 6;52(10):1215-1224. doi: 10.1093/jjco/hyac129.
8. Ishii T, Watanabe T, Higashi T. Baseline cardiac function checkup in patients with gastric or breast cancer receiving trastuzumab or anthracyclines. *Cancer Med*. 2023 Jan;12(1):122-130. doi: 10.1002/cam4.4929. Epub 2022 Jun 11.
9. Kanehara R, Goto A, Watanabe T, Inoue K, Taguri M, Kobayashi S, Imai K, Saito E, Katanoda K, Iwasaki M, Ohashi K, Noda M, Higashi T. Association between diabetes and adjuvant chemotherapy implementation in patients with stage III colorectal cancer. *J Diabetes Investig*. 2022 Oct;13(10):1771-1778. doi: 10.1111/jdi.13837. Epub 2022 Jun 4.
10. Higashi T. Cancer epidemiology and treatment patterns for older persons in Japan: A review of nationwide data and statistics. *Jpn J Clin Oncol*. 2022 Apr 6;52(4):303-312. doi: 10.1093/jjco/hyac011.
11. 力武 諒子、渡邊ともね、山元 遥子、市瀬 雄一、新野 真理子、松木 明、太田 将仁、坂根 純奈、伊藤 ゆり、東尚弘、若尾 文彦：がん診療連携拠点病院等の指定要件に関する調査 厚生 の指標 2022 年 6 月号(第 69 巻第 6 号) Page15-21
12. 力武 諒子、渡邊 ともね、山元 遥子、市瀬 雄一、新野 真理子、松木 明、太田 将仁、坂根 純奈、伊藤 ゆり、東尚弘、若尾 文彦：がん診療連携拠点病院等の指定要件関連の詳細に関する実態 病院 81 巻 5 号 (2022 年 5 月) Page436-441
13. 東尚弘 医療の質を評価して改善することの社会的意義 *medicina* 59 巻 11 号 Page1818-1821 (2022.10)
14. 東尚弘、中山 富雄 がん検診の質の考え方 *medicina* 59 巻 11 号 Page1966-1969 (2022.10)
15. Sakakibara A, Nakayama T, Uchida H, Odagiri Y, Ito Y, Katayama T, Ueda Y, Higuchi T, Terakawa K, Matsui K, Miyazaki K, Konishi I: Trends and future projections of cervical cancer-related outcomes in Japan: What happens if the HPV vaccine program is not implemented? *Int J Cancer* 2023. 152(9):1863-1874. doi:10.1002/ijc.34391
16. Hanafusa M, Ito Y, Ishibashi H, Nakaya T, Nawa N, Sobue T, Okubo K, Fujiwara T: Association between Socioeconomic Status and Net Survival after Primary Lung Cancer Surgery: A Tertiary University Hospital Retrospective Observational Study in Japan. *JJCO* 2023 30;53(4):287-296
17. Ota M, Asakuma M, Taniguchi K, Ito Y, Komura K, Tanaka T, Yamakawa K, Ogura T, Nishioka D, Hirokawa F, Uchiyama K, Lee SW: Short-Term Outcomes of Laparoscopic and Open Distal Pancreatectomy Using Propensity-Score Analysis: A Real-World Retrospective Cohort Study. *Annals of surgery* 2022. (in press). doi:10.1097/sla.0000000000005758
18. Kaneko N, Nishino Y, Ito Y, Nakaya T, Kanemura S: Association of Socioeconomic Status Assessed by Areal Deprivation with Cancer Incidence and Detection by Screening in Miyagi, Japan between 2005 and 2010. *J Epidemiol* 2022 (in press). doi:10.2188/jea.JE20220066
19. Taniyama Y, Oze I, Koyanagi YN, Kawakatsu Y, Ito Y, Matsuda T, Matsuo K, Mitsudomi T, Ito H: Changes in survival of patients with non-small cell lung cancer in Japan: an interrupted time series study. *Cancer Science* 2023. 114(3):1154-1164. doi: https://doi.org/10.1111/cas.15646
20. Amano K, Suzuki K, Ito Y: Changes in quality of life and lower urinary tract symptoms over time in cancer patients after a total prostatectomy: systematic review and meta-analysis. *Supportive Care in Cancer* 2022, 30(4):2959-2970. doi: 10.1007/s00520-021-06595-x
21. 片岡 葵, 井上 勇太, 西岡 大輔, 佐藤 倫治, 福井 敬祐, 伊藤 ゆり, 近藤 尚己: 都道府県別の社会経済状況を測る合成指標の開発: 健康寿命の

都道府県間格差対策に向けて. 厚生 の 指標 2023. (印刷中)

22. 片野田 耕太, 伊藤 秀美, 伊藤 ゆり, 片山 佳代子, 西野 善一, 筒井 杏奈, 十川 佳代, 田中 宏和, 大野 ゆう子, 中谷友樹: 諸外国でのがん登録データの地理情報の利用事例とわが国の全国がん登録の諸問題. 日本公衆衛生雑誌 2023, 70(3):163-170.doi: 10.11236/jph.22-093
 23. Yako-Suketomo H, Katayama K, Ogihara A, Asai-Sato M. Process of developing a cervical cancer education program for female university students in a Health and Physical Education teacher training course: an action research. BMC Womens Health. 2023 Apr 11;23(1):169. doi: 10.1186/s12905-023-02273-8.
 24. Yako-Suketomo H, Oura A, Katayama K, Saito K, Ohashi K, Navarro AM. The Effect of a Learning Partner Model-Based Program on Spreading Cancer Prevention Knowledge Using Community Health Volunteers in Japan. J Prim Care Community Health. 2022 Jan-Dec;13:21501319221110682. doi: 10.1177/21501319221110682.
 25. Hosokawa Y, Yako-Suketomo H, Ishii K, Oka K. Factors promoting collaboration between community sports leaders and guardians in urban areas of Japan: A cross-sectional study. Front Public Health. 2022 Aug 29;10:940580. doi: 10.3389/fpubh.2022.940580. eCollection 2022.
2. 学会発表
R2 年度
1. 伊藤ゆり. 2021. "既存統計資料を用いた健康格差モニタリング～がんを事例に～." 第 61 回日本社会医学会総会, [シンポジウム]. 京都 Feb 21 2020
 2. Ito, Y, Fukui, K, Katanoda, K, Higashi, T. 2020. 'Geographical disparities in the reduction of cancer mortality and the early detection of cancer by prefecture in Japan.', *The 79th Annual Meeting of Japanese Cancer Association 2020*. OE24-1 Epidemiological study, descriptive and cohort studies [Oral]. Hiroshima, Japan 1-3 Oct. 2020.
 3. 太田将仁, 伊藤ゆり, 東尚弘. 2021. "2018 年度がん診療連携拠点病院の現況報告からみたストラクチャ指標とプロセス指標の評価." 第 31 回日本疫学会学術総会, [Oral].
 4. 片岡葵, 福井敬祐, 佐藤倫治, 菊池宏幸, 井上茂, 近藤尚己, 中谷友樹, and 伊藤ゆり. 2021. "都道府県内の健康寿命・平均寿命の社会経済格差と都道府県全体の健康指標における関連性の検討." 第 31 回日本疫学会学術総会, [Oral].
 5. Cynthia de Luise, Haoqian Chen, Edward Nonnenmacher, Naonobu Sugiyama, Ryota Hase, Mitsuyo Kinjo, Daisuke Suzuki, Kayoko Katayama, Takakazu Higuchi, Sadao Jinno, Yoshiya Tanaka, Toshitaka Morishima, and Soko Setoguchi. Validity of Claims-based Definitions for Rheumatoid Arthritis, Selected Cancers And Infectious Diseases In Japan: Results From Validate-J Study. 35th ICPE Meeting Aug 24-28, 2019(Philadelphia)
 6. Cynthia de Luise, Haoqian Chen, Edward Nonnenmacher, Naonobu Sugiyama, Ryota Hase, Mitsuyo Kinjo, Daisuke Suzuki, Kayoko Katayama, Takakazu Higuchi, Sadao Jinno, Yoshiya Tanaka, Toshitaka Morishima, and Soko Setoguchi. Validity Of Claims-based Definitions For Rheumatoid Arthritis, Selected Cancers And Infectious Diseases In Japan: Results From Validate-J Study II. ISPE's 12th Asian Conference on Pharmacoepidemiology 2020(Japan)
 7. Ito Y, Kanoh A, Yuasa M, Saran U, Satyajit Rout, Ito H, Katayama K, Katanoda K, Matsuda T, Saruki N. Challenge in translating information about cancer survival to general people: sharing messages for cancer survivors using statistics of conditional survival. NAACCR/IACR Combined Annual Conference 2019. (Canada)
 8. Katayama K, Ishikawa D, Sakaguchi M. Cancer education support project: Spread of cancer education in Japan based on web search. 12th European Public Health Conference (November 2019 Marseille)
 9. Katayama K, Sato Asai M, Ougihara A, Suketomo H. Development and validation of a Peer Education program for cervical

cancer prevention. EUROGIN 2019 International multidisciplinary HPV congress. Free-Communication session # 0097 36-Health education.

10. 助友裕子、片山佳代子、扇原淳、佐藤美紀子. 大学生のヘルスリテラシーとがん知識との関連 (第 5 報) ピア学生の養成プロセス. 第 78 回日本公衆衛生学会総会 (高知) 2019.
11. 片山佳代子、助友裕子、扇原淳、佐藤美紀子. 大学生のヘルスリテラシーとがんの知識との関連 (第 6 報) ピア教育の効果検証. 第 78 回日本公衆衛生学会総会 (高知) 2019.
12. 鈴木大介、王鴻、周思宇、扇原淳、助友裕子、片山佳代子. 大学生のヘルスリテラシーとがんの知識との関連 (第 7 報) 中国大学生による検討. 第 78 回日本公衆衛生学会総会 (高知) 2019.
13. 石川 大介、片山 佳代子. がん電話相談の質的分析に基づいたテキストマイニングによる可視化. 第 39 回 医療情報学連合大会第 20 回日本医療情報学会学術大会 (千葉幕張メッセ) 2019.
14. 片山佳代子. 第 78 回日本公衆衛生学会総会 示説発表 健康教育セッション座長 (高知市) 2019 年 10 月.
15. 片山佳代子. 第 39 回日本思春期学会学術集会. ワークショップ 3 思春期以降のがん教育の在り方を考える. 3-3:「大学生を対象とした Peer Education による子宮頸がん予防教育プログラムの開発とその評価」金沢, 2020 年 9 月.
16. 片山佳代子、宮城洋平、石川大介、小川朝生. Analysis of Cancer Telephone Counseling by Mixed Methods: Differences in Counseling Needs between Japanese Men and Women. 第 58 回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2020 年.

R3 年度

1. 東 尚弘. インターネット調査の回答の正確性に関する一考察、一般口頭、第 32 回 日本疫学会学術総会 2022 年 1 月 26-28 日
2. 太田将仁、伊藤ゆり、渡邊ともね、市瀬雄一、山元遥子、力武諒子、松木明、新野真理子、坂根純奈、東尚弘、若尾文彦. 院内がん登録・DPC・現況報告からみるがん診療連携拠点病院における標準治療実施の現状、一般口頭、第 32 回 日本疫学会学術総会 2022 年 1 月 26-28 日
3. 東 尚弘 医療の質評価法 日本医療マネジメント学会第 19 回九州山口連合大会 2021 年 11 月 20 日
4. 堀抜文香、高山智子、市瀬雄一、渡邊ともね、東尚弘. 患者が求めるがん医療と支援体制の

検討: 患者体験調査に寄せられた自由回答の分析から、第 59 回日本癌治療学会学術集会、一般口頭、2021 年 10 月 23 日

5. 東 尚弘 子宮頸がん・卵巣がんの Quality Indicator と診療実態 第 63 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 2021 年 7 月 6 日
6. 東 尚弘 全国がん登録および院内がん登録の現状と課題 第 45 回日本頭頸部癌学会シンポジウム 2021 年 6 月 17 日
7. 伊藤 ゆり, 住民ベースのがん登録資料を活用した記述疫学研究. In: 第 32 回日本疫学会学術総会: 2022.1 2022; オンライン; 2022: A-01 奨励賞受賞者講演
8. 伊藤 ゆり, 堀 芽久美, 福井 敬祐, 太田 将仁, 中田 佳世, 杉山 裕美, 伊藤 秀美, 大木 いずみ, 西野 善一, 宮代 勲, 片野田 耕太, 柴田 亜希子, 智大 松: 20 年間でがん患者の生存率は向上したか?6 府県の住民ベースのがん登録による検討. In: 第 32 回日本疫学会学術総会: 2022; オンライン; 2022: O-05 優秀演題賞候補セッション[口演].
9. 伊藤ゆり: 国内外におけるマイクロシミュレーションモデルを活用したがん対策. In: JACP がん予防学術大会 2021 プログラム・抄録集: 2021; 2021: 31.
10. 伊藤ゆり: 10 年生存率から見えてくること. In: 全国がん患者団体連合会・がん患者学会 2021: 2021.08.21 2021; JACR 後援セッション; 2021. Online [招待講演]
11. 伊藤ゆり: がん登録とは?. In: 第 19 回日本臨床腫瘍学会学術集会 PAP 基礎講座 11 がん登録: 2022.02.18 2022; 京都; 2022: [招待講演].
12. Ito Y, Fukui K, Kondo N, Katanoda K, Nakaya T, Sobue T: Trends in area-level socioeconomic inequalities of lung cancer mortality by age group in Japan: 1995-2014 In: International Epidemiological Association's World Congress of Epidemiology. 2021. Sep. Online [Oral]
13. Ota M, Ito Y, Taniguchi K, Hori M, Katanoda K, Uchiyama K, Matsuda T: Trends in patterns of treatment and survival of colorectal cancer patients using population-based cancer registry data in Japan: 1995-2015. In: 第 80 回日本癌学会学術総会: 2021/10/2 2021; 2021.
14. 太田将仁, 伊藤ゆり, 渡邊ともね, 市瀬雄一, 山元遥子, 力武諒子, 松木明, 新野真理子, 坂根純奈, 東尚弘, 若尾文彦: 院内がん登録・DPC・現況報告からみるがん診療連携拠点病

院における標準治療実施の現状. In: 第 32 回日本疫学会学術総会: 2022/1/26-28 2022: 東京/ハイブリット; 2022: OD-074[口演].

15. 片岡葵, 太田将仁, 谷口高平, 小村和正, 伊藤ゆり: がん登録と生体試料のレコードリンケージデータによる大腸がんの臨床・疫学研究に関するシステムティックレビュー. In: 日本がん登録協議会第 30 回学術集会: 6 月 2021; オンライン; 2021: (オンライン) [口演].
16. 太田将仁, 新城安彦, 松本吉史, 伊藤ゆり, 東尚弘: がん診療連携拠点病院現況報告における院内がん登録の活用に関する検討. In: 日本がん登録協議会第 30 回学術集会: 6 月 2021; オンライン; 2021: O2-01[口演].
17. 片岡葵, 福井敬祐, 佐藤倫治, 西岡大輔, 菊池宏幸, 井上茂, 近藤尚己, 中谷友樹, 伊藤ゆり: 人口規模・社会経済状況を考慮した健康寿命の都道府県内格差の計測. In: 第 32 回日本疫学会学術総会: 2022/1 月 2022; オンライン; 2022: O-012[口演].
18. 石丸 紗恵, 渡辺 ともね, 市瀬 雄一, 山元 遥子, 松木 明, 東 尚弘, 小川 千登世. 小児患者体験調査報告: 患児と家族の支援. 第 63 回日本小児血液・がん学会学術集会 web 開催. 2021,11,25-27
Sae Ishimaru, Tomone Watanabe, Yuichi Ichinose, Yoko Yamamoto, Mei Matsuki, Takahiro Higashi, Chitose Ogawa . Experience of Childhood Cancer Patient and Caregivers in Japan—A National Survey. SIOP2021. Virtual Congress, October 21 - 24, 2021
19. 東尚弘, 市瀬雄一, 渡邊ともね, 脇田貴文. インターネット調査の回答の正確性に関する一考察. 第 32 回 日本疫学会学術総会.
20. 市瀬雄一, 渡邊ともね, 樋田勉, 東尚弘. 患者体験調査におけるがん長期療養患者の実態. 第 32 回 日本疫学会学術総会.
21. 片山佳代子, 佐藤美紀子, 助友裕子, 扇原淳. Development and Validation of a Peer Education Program for Cervical Cancer Prevention. 第32回日本疫学会学術総会(オールラ: オンデマンド)OD-077. 2022, 2月
22. Tomone Watanabe, Ryoko Rikitake, Tamaki Kakuwa, Yuichi Ichinose, Mariko Niino, Yu Mizushima, Masato Ota, Manami Fujishita, Yoichiro Tsukada, Takahiro Higashi. Time to Treatment Initiation for Six Cancer Types: An Analysis of Data from a Nationwide Registry in Japan. World journal of surgery 1-10 2023 年 1 月 6 日
23. Yuichi Ichinose, Yi-Hsin Yang, Hui-Jen Tsai, Ru-Yu Huang, Takahiro Higashi, Toshirou Nishida, Li-Tzong Chen. Imatinib use for

gastrointestinal stromal tumors among older patients in Japan and Taiwan. Scientific reports 12(1) 22492-22492 2022 年 12 月 28 日

24. 力武 諒子, 渡邊 ともね, 山元 遥子, 市瀬 雄二, 新野 真理子, 松木 明, 太田 将仁, 坂根 純奈, 伊藤 ゆり, 東 尚弘, 若尾 文彦. がん診療連携拠点病院等の指定要件に関する調査. 厚生学の指標 69(6) 15-21 2022 年 6 月
25. 力武 諒子, 渡邊 ともね, 山元 遥子, 市瀬 雄二, 新野 真理子, 松木 明, 太田 将仁, 坂根 純奈, 伊藤 ゆり, 東 尚弘, 若尾 文彦. がん診療連携拠点病院等の指定要件関連の詳細に関する実態. 病院 81(5) 436-441 2022 年 5 月
26. 片山佳代子. がん患者の統計分析 「がん登録データを使った高齢化に伴う地域の罹患予測: APCモデルと単年モデル」. 公益財団法人統計情報研究開発センター編集発行. 「エストレーラー」2022年5月.
27. Suketomo Yako-Hiroko, Asae Oura, Katayama K, Saito K, Ohashi K, Ana M Navarro. The Effect of a Learning Partner Model-Based Program on
28. Spreading Cancer Prevention Knowledge Using Community Health Volunteers in Japan. J Prim Care Community Health. 2022 Jan-Dec;13:21501319221110682.
29. 片野田耕太, 伊藤秀美, 伊藤ゆり, 片山佳代子, 他、諸外国でのがん登録データの地理情報の利用事例とわが国の全国がん登録の諸問題. 日本公衆衛生雑誌. 2023 Feb 10. doi: 10.11236/jph.22-093.
30. 石川大介, 片山佳代子. 質的分析に基づいたテキストマイニングによるがん電話相談からの主訴の抽出と可視化. 医療情報学 42(2) 47-59 2022 年.

R4 年度

1. 東尚弘. 地域におけるがん医療の課題と展望: 均てん化は進んだか? 第 60 回日本癌治療学会学術集会シンポジウム 2022 年 10 月 20 日
2. 高山智子, 市瀬雄一, 渡邊ともね, 東尚弘. がん診療連携拠点病院がん相談支援センターの利用状況と医療の質との関連に関する研究、一般口頭、第 81 回日本公衆衛生学会総会 2022 年 10 月 7-9 日
3. 市瀬雄一, 渡邊ともね, 角和珠妃, 山元遥子, 新野真理子, 東尚弘. 経口抗がん薬服用患者を対象とした服薬管理に関する理解度調査、一般口頭、第 81 回日本公衆衛生学会総会 2022 年 10 月 7-9 日
4. 高山智子, 市瀬雄一, 渡邊ともね, 東 尚弘. がん診療連携拠点病院がん相談支援センターの利用状況と医療の質との関連に関する研究.

第 81 回日本公衆衛生学会総会（山梨）2022 年 10 月 9 日。

5. Ito Y, Fukui K, Katanoda K, Nakaya T, Higashi T, Sobue T: Monitoring of area-based socioeconomic inequalities in cancer survival using nationwide population-based cancer registry data in Japan. In: The International Conference on Health Policy Statistics: 2023; Scottsdale, AZ; 2023: Poster 007.
6. 伊藤ゆり. 本邦におけるサバイバーシップ研究の現状と課題. シンポジウム 10 がん経験者の二次がん、晩期合併症の課題と対応. 第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2023/3/16. 博多
7. 川崎由華, 太田将仁, 西岡大輔, 伊藤ゆり. 就労世代の肺がん患者への療養・就労両立支援指導料算定の実態 : JMDC Claims Database による分析第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2023/3/18. 博多 [口演]
8. 片岡葵, 太田将仁, 谷口高平, 小村和正, 伊藤ゆり: 2010-2019 年の健康寿命・平均寿命とその格差の推移: 市区町村別社会経済指標による評価. In: 第 33 回日本疫学会学術総会: 2023/2 2023; 浜松: [Poster]; 2023.
9. 岡 愛実子 片葵 中友, 上田 豊, 伊藤 ゆり: 人口動態統計を用いた婦人科がんにおける年齢調整死亡率の市区町村別地域指標との関連とその推移. In: 第 33 回日本疫学会学術総会: 2023/2 2023; 浜松: [Poster]; 2023.
10. 太田将仁, 坂根純奈, 片岡葵, 西岡大輔, 松本吉史, 谷口高平, 伊藤ゆり: 消化器がん患者の社会経済指標と生存率の関連 単施設の院内がん登録と DPC のリンケージによる検討. In: 日本がん登録協議会第 31 回学術集会: 2022/6/3 2022; 長野, 信州大学医学部附属病院: [一般口演]; 2022.
11. 伊藤ゆり: 健康格差を測る ～地域指標と健康アウトカムの関連～. In: 第 7 回日本糖尿病・生活習慣病ヒューマンデータ学会: 2022/12/2 2022; 東京: 特別講演 4; 2022.
12. 本荘哲, 伊藤ゆり, 赤星進二郎, 松村千恵子, 河原信彦, 金井正朗, 山本重則, 重田みどり, 後藤一也: 重症心身障害者におけるがん医療の実態調査-NHO 重症心身障害ネットワーク研究. 第 29 回がん予防学術大会プログラム・抄録集 2022:63.
13. 本荘 哲, 伊藤 ゆり: 重症心身障害者における大腸がん 運動習慣がない集団における検討 (Colorectal cancer among persons with severe motor and intellectual disabilities who do not practise physical activity). 第 81 回日本癌学会学術総会 2022, 81:P-3361.
14. 片岡葵, 太田将仁, 谷口高平, 小村和正, 伊藤ゆり: 院内がん登録・生活習慣アンケートをリンケージしたバイオバンクデータベースの活用に向けて:大阪医科薬科大学の取り組み. In: 第 29 回がん予防学術大会: 2022/7 2022; 京都: [口演]; 2022.
15. 福井敬祐, 伊藤ゆり, 片野田耕太: 都道府県別にみるがん年齢調整死亡率の推移予測ツールの開発. 第 29 回がん予防学術大会プログラム・抄録集 2022:44.
16. 柘植 博之, 谷山 祐香里, 川北 大介, 小柳 友理子, 尾瀬 功, 伊藤 ゆり, 松田 智大, 岩崎 真一, 松尾 恵太郎, 秀美 伊: 地域がん登録データから求めた喉頭がん生存率の経時的変化 (Changes in survival of laryngeal cancer by period: data from population-based cancer registries.). 第 81 回日本癌学会学術総会 2022, 81:E-3037
17. 伊藤 ゆり, 堀 芽久美, 福井 敬祐, 太田 将仁, 中田 佳世, 杉山 裕美, 伊藤 秀美, 大木 いずみ, 西野 善一, 宮代 勲, 澤田 典絵, 片野田 耕太, 柴田 亜希子, 松田 智大: When is cancer survivors' risk of death the same as the general population? timing of 100%+ conditional 5-year survival In: 第 81 回日本癌学会学術総会: 2022/10/1 2022; 神奈川, パシフィコ横浜: [口演]; 2022: English Oral (E24)
18. 伊藤 ゆり: 社会環境の評価指標. In: 第 9 回生存科学シンポジウム 「健康な社会の実現を目指して」ー最近の研究からー: 2022/12/10

- 2022; 東京: [シンポジウム]; 2022.
19. 助友裕子. アクションリサーチの報告のためのガイドラインについて. 第30回日本健康教育学会学術大会, 獨協医科大学 (栃木県壬生町), 2022年7月.
 20. 助友裕子. コミュニティとのヘルスプロモーション研究の立ち上げ方:現場との研究を後押しするパートナーシップの築き方. 第30回日本健康教育学会学術大会, 獨協医科大学 (栃木県壬生町), 2022年7月.
 21. Yako-Suketomo H, Hosokawa Y, Fujino Y. Health impact assessment to close the physical activities disparities for sports promotion programmes in Mitaka City, Tokyo, Japan. 24th IUHPE World Conference on Health Promotion (May 15-19, 2022) in Palais des congr ess de Montreal, Montreal Quebec, Canada.
 22. 市瀬雄一, 力武諒子, 山元遥子, 石井太祐, 角和珠妃, 松木明, 新野真理子, 渡邊ともね, 東尚弘. がん診療連携拠点病院等のセカンドオピニオン提供体制と患者の認識. Journal of Epidemiology 33 2023年2月
 23. Yuichi Ichinose, Tsutomu Toida, Tomone Watanabe, Takafumi Wakita, Takahiro Higashi. Comparing the Advanced Cancer Patient Experiences of Three vs. Six Years after Diagnosis in Japan. International Conference on Health Policy Statistics 2023年1月
 24. 永吉 真子, 加藤 承彦, 可知 悠子, 越智 真奈美, 近藤 天之, 市瀬 雄一, 竹原 健二. 父親の家事・育児頻度と母親が子のお尻をたたく行動との関連 21世紀出生児縦断調査. 日本公衆衛生学会総会抄録集(1347-8060)81回 2022年10月
 25. 高山智子, 市瀬雄一, 渡邊ともね, 東尚弘. がん診療連携拠点病院がん相談支援センターの利用状況と医療の質との関連に関する研究. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2022年10月
 26. 市瀬雄一, 渡邊ともね, 新野 真理子, 角和珠妃, 山元 遥子, 東 尚弘. 経口抗がん剤服用患者を対象とした服薬管理に関する理解度調査. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2022年10月
 27. 須藤 茉衣子, 杉山 雄大, 今井 健二郎, 井花庸子, 細澤 麻里子, 市瀬 雄一, 新野 真理子, 竹上 未紗, 臼田 謙太郎, 児玉 知子, 田口 怜奈, 佐藤 美寿々, 田中 素子, 竹原 健二, 磯博康. 日本におけるレセプトデータ研究の概況 スコーピングレビュー. 日本公衆衛生学会総会抄録集(1347-8060)81回 2022年9月
 28. Yuichi Ichinose, Tsutomu Toida, Tomone Watanabe, Takafumi Wakita, Takahiro Higashi. Comparing the Advanced Cancer Patient Experiences of Three vs. Six Years after Diagnosis in Japan. International Conference on Health Policy Statistics 2023年1月
 29. 市瀬雄一, 力武諒子, 山元遥子, 石井太祐, 角和珠妃, 松木明, 新野真理子, 渡邊ともね, 東尚弘. がん診療連携拠点病院等のセカンドオピニオン提供体制と患者の認識. Journal of Epidemiology 33 2023年2月
 30. Yuichi Ichinose, Tsutomu Toida, Tomone Watanabe, Takafumi Wakita, Takahiro Higashi. Comparing the Advanced Cancer Patient Experiences of Three vs. Six Years after Diagnosis in Japan. International Conference on Health Policy Statistics 2023年1月
 31. 永吉 真子, 加藤 承彦, 可知 悠子, 越智 真奈美, 近藤 天之, 市瀬 雄一, 竹原 健二. 父親の家事・育児頻度と母親が子のお尻をたたく行動との関連 21世紀出生児縦断調査. 日本公衆衛生学会総会抄録集(1347-8060)81回 2022年10月
 32. 高山智子, 市瀬雄一, 渡邊ともね, 東尚弘. がん診療連携拠点病院がん相談支援センターの利用状況と医療の質との関連に関する研究. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2022年10月
 33. 市瀬雄一, 渡邊ともね, 新野 真理子, 角和珠妃, 山元 遥子, 東 尚弘. 経口抗がん剤服用患者を対象とした服薬管理に関する理解度調査. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2022年10月
 34. 須藤 茉衣子, 杉山 雄大, 今井 健二郎, 井花庸子, 細澤 麻里子, 市瀬 雄一, 新野 真理子, 竹上 未紗, 臼田 謙太郎, 児玉 知子, 田口 怜奈, 佐藤 美寿々, 田中 素子, 竹原 健二, 磯博康. 日本におけるレセプトデータ研究の概況 スコーピングレビュー. 日本公衆衛生学会総会抄録集(1347-8060)81回 2022年9月
 35. 片山佳代子, 佐藤美紀子, 助友裕子, 扇原淳. Development and Validation of a Peer Education Program for Cervical Cancer Prevention. 第32回日本疫学会学術総会(web)2022年.
 36. 片山佳代子. 西宮市保健センター 保健師行政対象子宮頸がん予防・HPVワクチン教育講演, 令和4年5月(西宮市)
 37. 片山佳代子. 神奈川県立深沢高等学校2年生: 招聘講義「子宮頸がんの予防」. 令和4年7月(オンライン)
 38. 片山佳代子. 令和4年度群馬県中堅養護教員資質向上研修及び健康教育研修講座 講義「がん

教育の進め方」. 令和4年7月（群馬県総合教育センター）

39. 片山佳代子. 招聘講演:寒川町教員研修講演「がん教育の進め方」. 令和4年8月（寒川町）
40. 片山佳代子. 第81回日本公衆衛生学会総会シンポジウム8. シンポジスト「これからの子宮頸がん対策～HPVワクチン接種勧奨再開～」, 令和4年10月（甲府市）
41. 片山佳代子. 第60回日本癌治療学会学術集会シンポジウム1. シンポジスト「がん患者のためのチーム医療促進プロジェクト」, 令和4年10月（神戸市）
42. 片山佳代子. 第60回日本癌治療学会学術集会会長企画シンポジウム12 招聘講演「ビッグデー

タとデジタル化がもたらすがん医療の未来」令和4年10月（神戸市）.

H. 知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし